



(ひかり かがやく子)

# 「蛍」の子

堀之内小学校だより  
R 6年度 1月号  
令和 7年 1月 8日

【重点目標】 「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

## 「書道パフォーマンス」

昨年末、静岡で行われた「書道パフォーマンス」を見に行きました。今年のテーマは、「REAL(リアル)」。県内外 12 の高等学校の書道部が集まり、縦 4m、横 6m の大きな紙に、全身で筆を走らせながら、テーマに沿って、自分たちの想いを込めた作品を作り上げていきました。生徒たちのパフォーマンスは例年通り、迫力と熱意にあふれるものでしたが、できあがった作品に書かれたことばに、例年にないことばが多く見られました。中でも多かったことばが「偽りの自分」。その他、次のようなことばが書かれていました。

「私も知らない自分を振りまく日常」「さらけ出せない私」「偽り」「心の声」  
「画面の世界では届かぬ感情」「誰の役にも立てない」「楽しくない」「臆病」  
「ありのままの私」「アイツがうらやましい」「自分を愛せ」「もう逃げない」  
「幾多の試練」「変わり続ける世界」「真の絆」「新しい世界」「自分らしく」

例年は、感謝のことばや希望溢れることばが多かったのに対し、今年はテーマが「REAL(リアル)」のためか、このようなことばと共に、そういう自分や自分たちを変えたい、抜け出したいという思いが、多くの学校の作品に表現されていました。今の高校生の葛藤、悩み、切なさなどが字体や筆遣いでも、上手く表現されていましたが、例年とは違う感情を抱いて帰路につきました。

私が観覧しているとき、私の前にいた 3 人の女子生徒が、ある学校が表現した言葉を読んで、「この気持ちわかるね～。ウチら、24 時間、気を抜く暇がないからね～」と話していました。確かに、スマホやタブレットがなかった時代は、友達とケンカしても、下校して一旦別れば、また、その続きから次の日が始まりましたが、今の子どもたちは、家に帰った後でもコミュニケーションが続きます。一夜明ければ、「私」の知らないところで、昨日とは全く違う展開や状況になっていることもあります。「24 時間、気を抜く暇がない」という言葉は、今の高校生の正に「リアル」な言葉だったと思います。



新しい一年がスタートしました。今年もまた、「新しいコミュニケーションツール」が開発されるでしょう。時代は加速度を増して変化し続けています。そのような時代に生きる子どもたちに、私たち大人は、どのようなことを教え、伝えていけば良いのでしょうか。何を与え、(何を制限し、)どのようなことを「大事なこと」として育てていけば良いのでしょうか。今年も、皆さんと一緒に考え、皆さんと一緒に堀小の子どもたちを育てていきたいと思っています。

本年も、どうぞ、よろしく願いいたします。

(校長 後藤克巳)